

奄美群島の伝統文様の図形化と用途展開に関する研究

企画支援部 ○山田淳人, 上原守峰, 惠原 要*

大島紬部 操 利一

研究主幹(企画支援担当) 中村寿一

(*現 (公社)鹿児島県特産品協会)

1. はじめに

奄美群島は、地理的にも歴史的にも独自の文化を育てており、中でも「針突（はづき）」は、明治初めまで女性の手の甲に施されていた独特な習慣で、これまで脚光を浴びることがなかった。そこで、針突の文様や奄美群島に残る他の文様をデータ化・図形化し、複合利用するなどして新規文様を創出し、奄美群島内の企業と共同で伝統文様を利用した商品開発を行った。

2. 研究概要

2. 1 開発の経緯

近年、奄美群島では、国際的希少種や固有種の生息・生育地であること、種多様性に富むサンゴ礁生態系が見られることから、国立公園の指定や世界自然遺産登録へ向け、注目されている。しかし、国の伝統的工芸品の大島紬を除いて、地元の特徴ある工芸品などは少ない。そこで、針突の文様や奄美群島に残る他の文様（奄美の伝統的な建造物・高倉に施されている文様など）を調査収集し、その文様をデータ化・図形化する手法研究や文様を複合利用するなど新規文様を創出し、奄美群島の伝統文様を利用した商品開発の事例研究を行うことにした。

2. 2 針突や高倉とその文様について

針突は、沖縄や奄美の女性の手の甲や手首に施されていた入墨の習慣で、入墨する動機として諸説あるが、針突を施すことは女性の憧れであった。文様は手の指や手首など部位ごとに様々あり、文様のほとんどが魔除けを願ったものであるが、右手は親にしてもらい、左手は結婚後に配偶者にしてもらいなど背景が奥深いものである。

高倉とは、古代南方型建築様式で造られた高床式倉庫である。その高倉の入り口に、様々な文様が施されている。針突文様と比べて、直線的で記号的な文様が特徴で、その意味合いは、東西南北を表したものや外敵を防ぐ呪術的なものなど諸説あるが、当時は文字が読めない人も多かったとのことから表札的な意味合いが強いのではないかと言う説が有力である。図形化した針突文様を図1に、高倉文様を図2に示す。

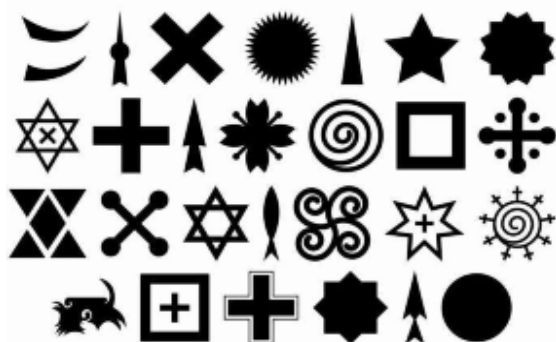


図1 図形化した針突文様

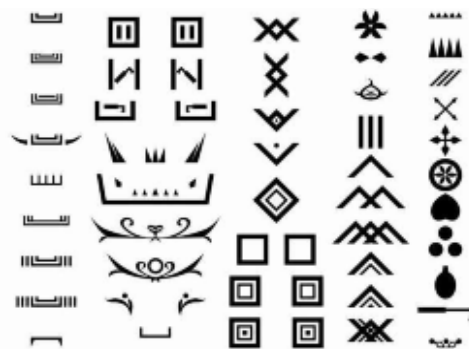


図2 図形化した針突文様

3. 用途展開の事例について（染織製品、木製品、皮革製品への展開）

島内の企業に対し、文様柄を利用した商品開発を共同で行った。針突の持つ魔除けの意味やそれぞれの企業の特徴を活かし様々な商品ができあがった。島外からの観光客にも文化的背景を語ることが出来て好評である。展示会やコンクールで入賞する作品なども出てきている。（図3～8）



図3 板締め染色を利用した染織製品



図4 文様を利用した草木泥染大島紬



図5 文様を利用したアクセサリ



図6 文様を利用したネックレス



図7 皮革を利用した皮革商品



図8 大島紬を挟んだキーホルダー一部分

4. おわりに

今回の研究で、地域文化を反映した文様を商品展開することで、強いアピール力を持つ商品を生むことがわかった。魅力的な商品を作るためには、地域の特徴ある文化的要素が不可欠であると同時に、地理的にも歴史的にも奄美地域の持つ特異な文化は貴重な財産であると実感した。今後は、奄美伝統文様のPRと活用事例の拡大を図ると同時に、県内で、奄美地域以外に現存する地域固有の文様を調査し、展開事例を研究することで、県内産業の振興に努めていきたい。